

本市に転入する若い世代の居住地分析

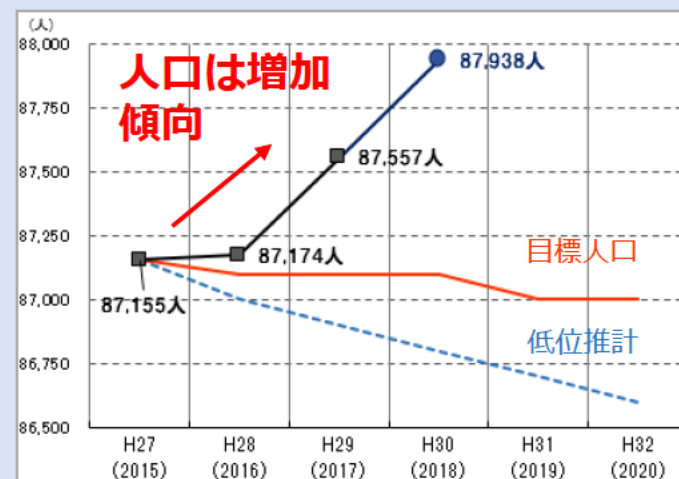


静岡県 袋井市 市長公室総合戦略室

本市の人口動態と課題

○本市人口動態から見る課題として、**20歳代は転入超過**である一方、子どもと子育て世代（30～40歳代前半）は**転出超過傾向**

○本市に一度は居住した方を定住に結び付けていく施策の検討を目的として、**本市へ市外から転入した「若い世代」は本市のどこに住んでいるのかを分析**



(図1) 人口推移と目標人口推計

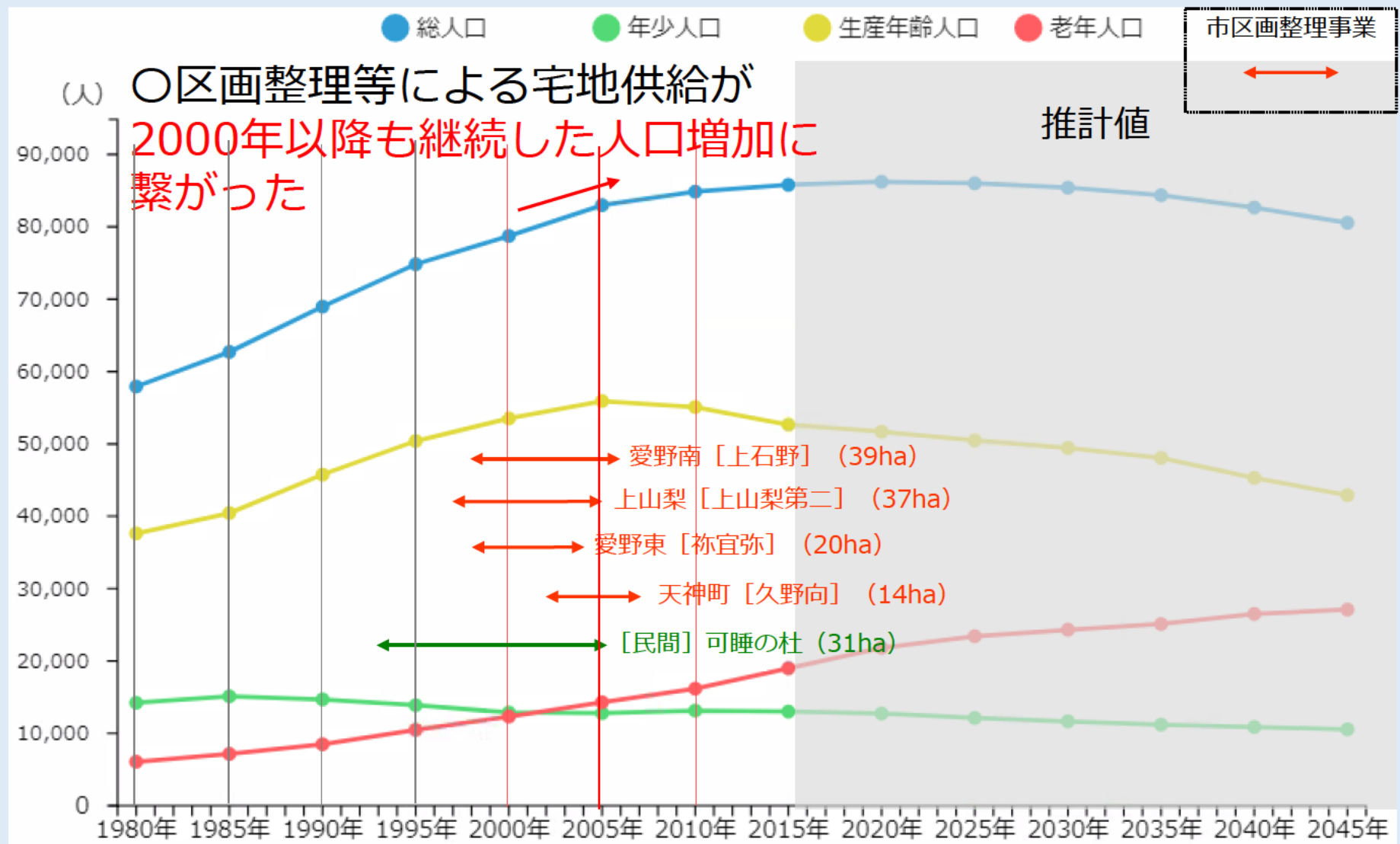
	H25	H30	増減	
年少	0～4歳	4,685	4,249	-
	5～9歳	4,562	4,524	▲161
	10～14歳	4,330	4,538	▲24
生産年齢	15～19歳	4,077	4,294	▲36
	20～24歳	4,445	4,228	151
	25～29歳	5,694	4,872	427
	30～34歳	6,367	5,959	265
	35～39歳	6,814	6,266	▲101
	40～44歳	6,410	6,712	▲102
	45～49歳	5,082	6,331	▲79
	50～54歳	5,024	5,060	▲22
	55～59歳	5,595	5,031	7
	60～64歳	6,439	5,557	▲38

(図2) 5歳階級別増減人数 (H25⇒30)



(図3) 0～9歳の転出入状況 (H29)

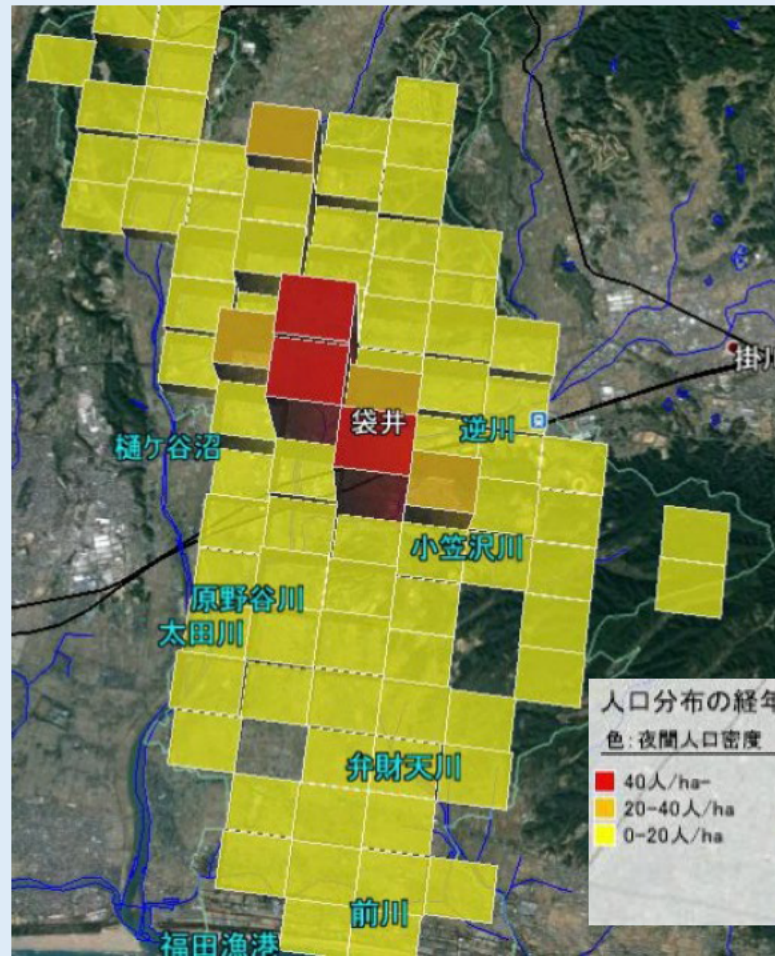
人口変遷と主な土地区画整理事業 (2000～2010)



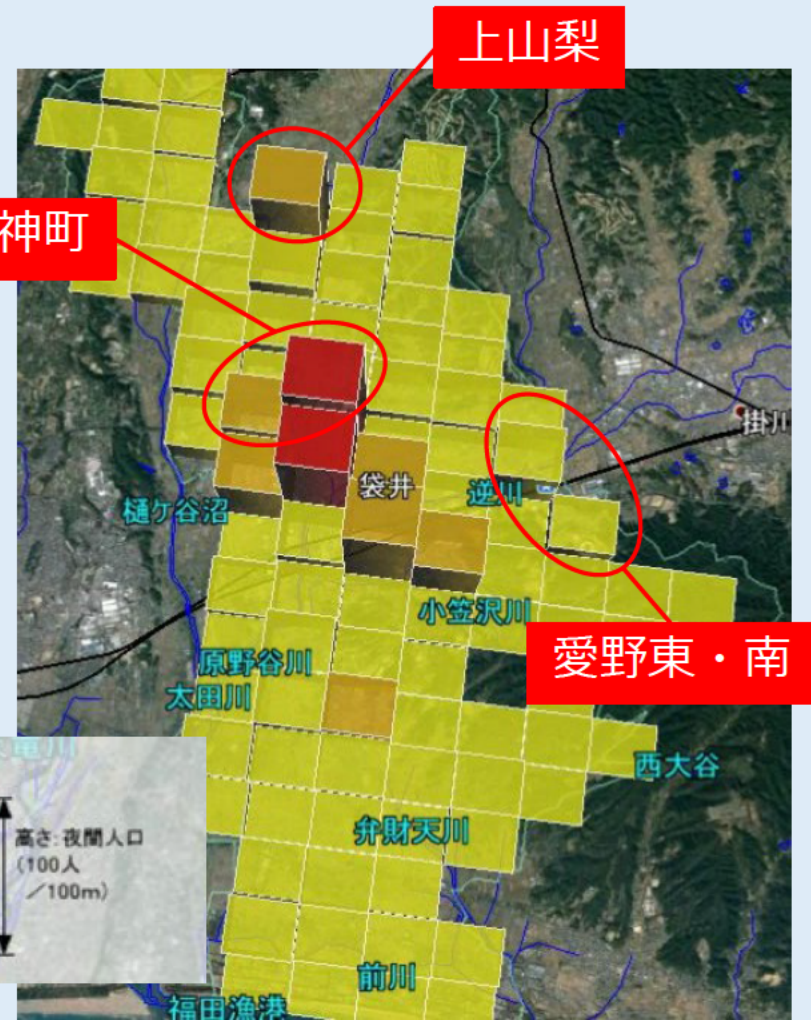
(図) 人口推移及び区画整理事業実施状況 (1995年以降)

本市の人口分布変化 (2000→2010)

○区画整理を実施した地区は人口が増加



(図1) 2000年国勢調査

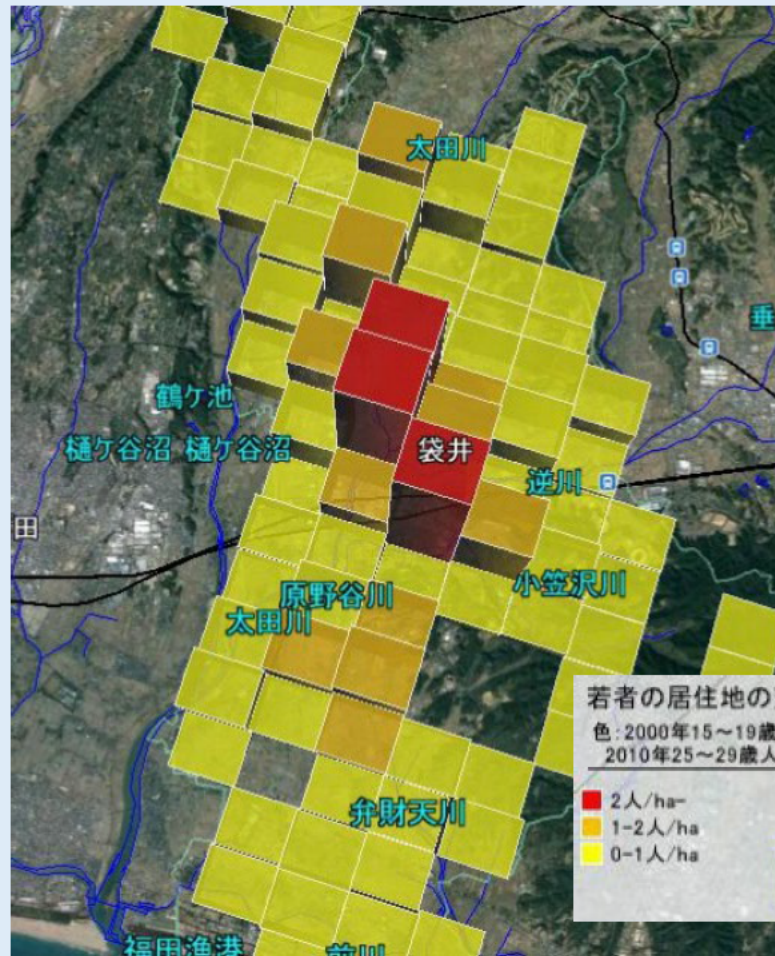


(図2) 2010年国勢調査

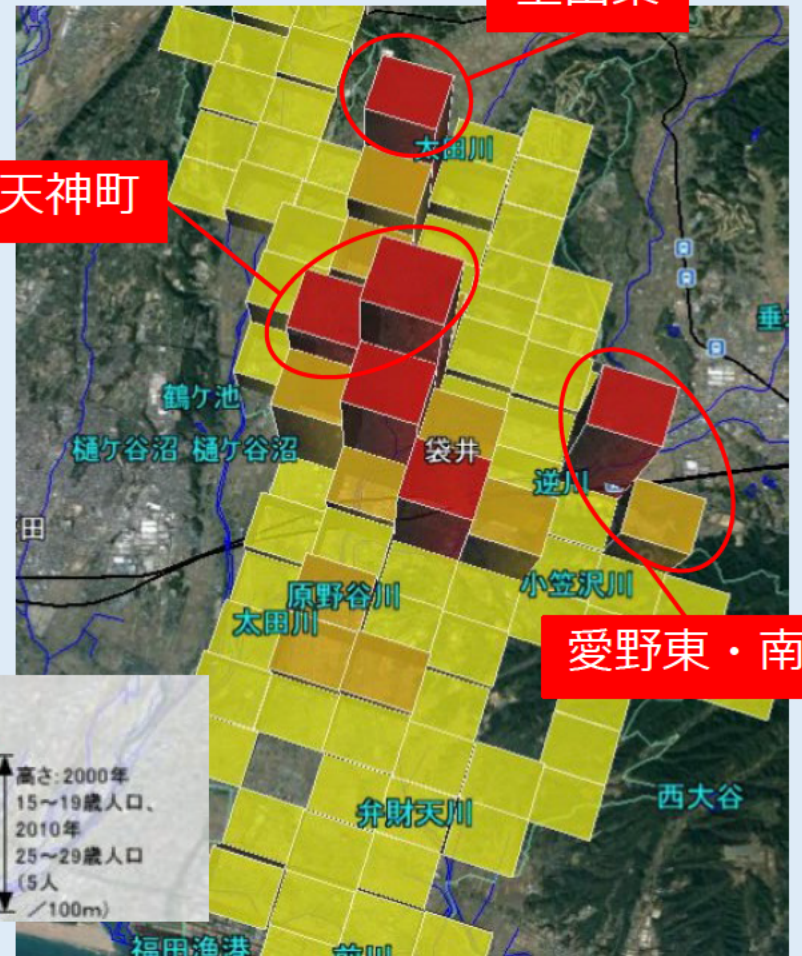
(出典: 都市構造可視化計画「人口分布の経年変化」)

若い世代の居住地変化 (2000 [15~19歳] → 2010 [25~29歳])

○区画整理を実施した地区は若い世代も増加、人口分布と比較すると愛野東・南地区（JR愛野駅エリア）の増加が顕著



(図1) 2000年国勢調査

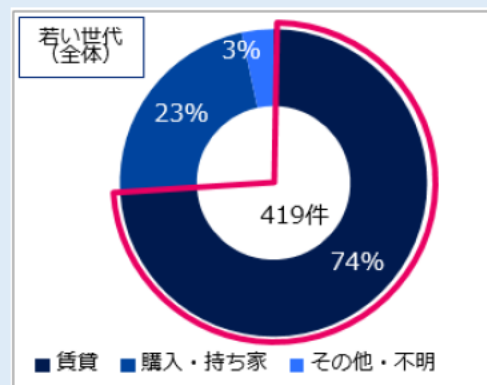


(図2) 2010年国勢調査

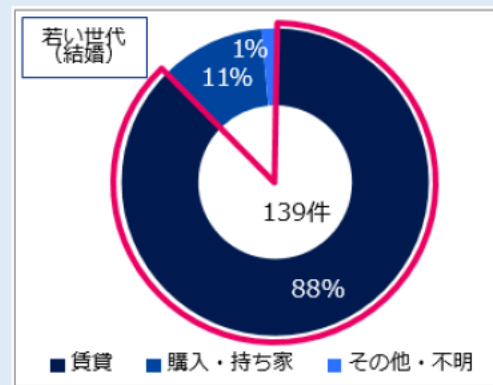
(出典：都市構造可視化計画「若者の居住地の変化」)

転入する若い世代（～40歳）の住まいと 区画整理実施各地区の賃貸住宅居住率・高齢化率

○転入する若い世代（～40歳）
は約75%が賃貸住宅に居住、
特に結婚を機に転入する方は
約90%が賃貸住宅に居住



（図1）転入する若い世代
（～40歳）の住居状況

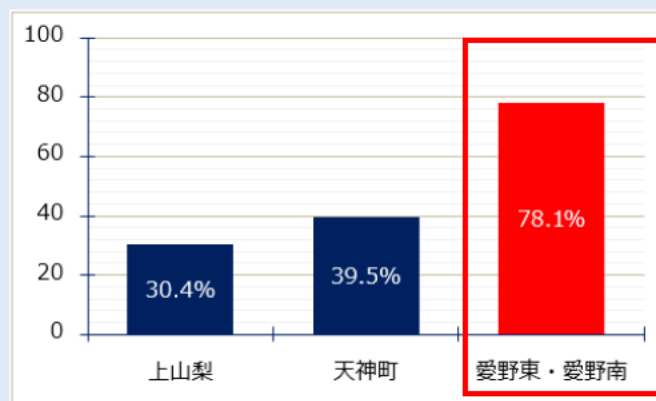


（図2）結婚を機に転入する
若い世代の住居状況

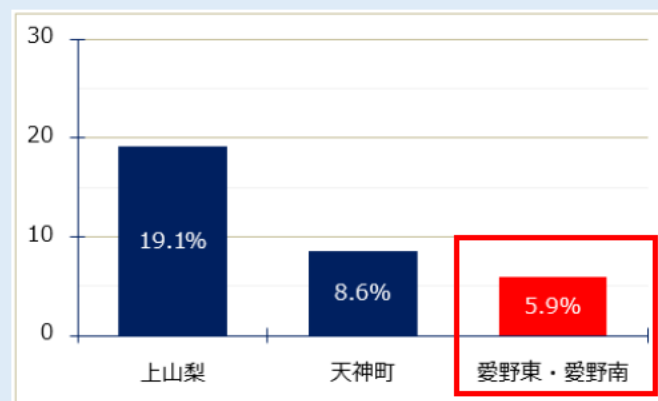
（出典：人口移動実態調査 [平成28年度実施]）

○区画整理実施の各地区を
比較すると、愛野東・南地区
（愛野駅エリア）の賃貸住宅
居住率が約80%と
極めて高い

○同様に
高齢化率も同地区
が5.9%と最も低い



（図3）区画整理各地区の賃貸住宅居住率※



（図4）区画整理各地区の高齢化率
(H30.4) ※

（出典：平成27年国勢調査「住居の種類」）

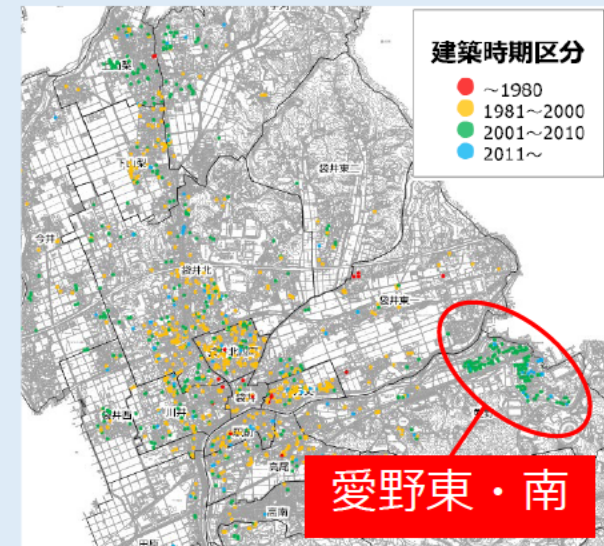
（出典：平成30年本市作成資料）

まとめ

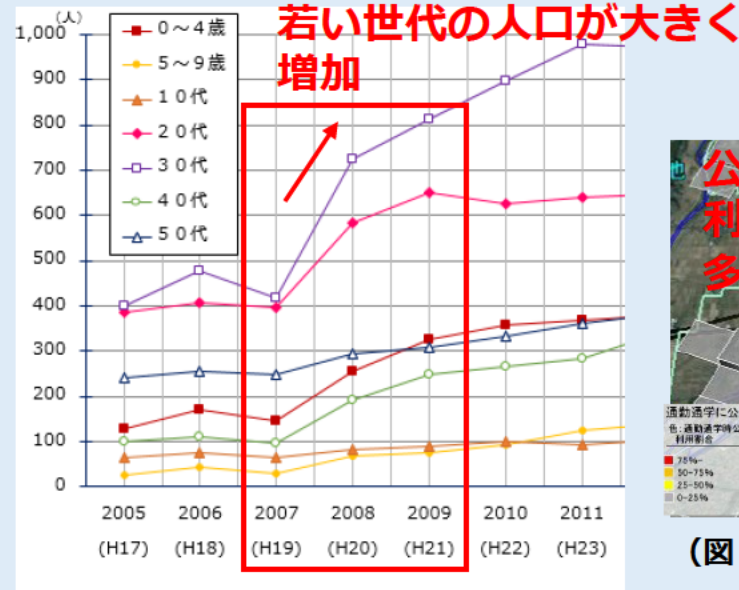
○以上から、市外から転入する「若い世代」は、愛野駅エリア（愛野東・愛野南地区）に居住する割合が多いと推察できる

○理由として、区画整理完了後の2000年代に当該地区内へ賃貸住宅が多数立地がしたこと挙げられる（新しい物件が多い）

○一方で、居住地の選択において、公共交通の有無はあまり影響していない可能性が高い（自家用車での通勤が多い）



（図1）賃貸住宅の建築時期立地状況



（図2）愛野駅エリアの人口推移



（図3）通勤通学への公共交通の利用割合（2010年）

（出典：都市構造可視化計画

「通勤通学に公共交通を使う人の割合」）7



静岡県 袋井市 市長公室総合戦略室